

リーダーになる!

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。

第23回 上司はワガママでいい

上司であるからには、ポリシーがあるならば「ワガママ」でもいいと思います。ただし、部下がその「ワガママ」をどう受け止めているか知っておきましょう。

自分の上司に対して、「この人はワガママだな」と感じたことはありませんか。上司に対して、ワガママだと感じたことがないという人のほうが少ないのかもしれない。



「来ません。反対に、上司になつてみて「今、自分はワガママなことを言っているな」とか「これって、わたしの勝手なのか」と思いつつ、話を進めていることも多々

あるでしょう。

部下の反応を知ろう 「でも」と「から」の原理

わたし自身は、上司がワガママであることを悪いとは思っていません。上司であるからには、多少くらいワガママでも、自分のポリシーや頑固さを持っているならば、そのくらいでちょうどいいとさえ思っています。ただ、上司のワガママを部下が受け止める場合、二つのパターンがあることを覚えておいてください。

まず一つめは、上司のワガママを部下が好意的に受け止めてくれて、「すごく矛盾しているな。でも…」「本



嶋津良智 ■ リーダースアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダースアカデミー」を設立。

対話の大切さ 信頼を積み重ねる

当に勝手だな。でも…」「頭にくるな。でも…」と考えてくれるパターンです。上司との信頼関係ができていたために、上司のワガママを踏まえた上で、仕事をしてくれるケースです。これをわたしは「でもの原理」と呼んでいます。

一方、上司がワガママを言ったとき、「すごく矛盾しているから…」「本当に勝手だから…」「頭に来るから…」という感じで、どんだん否定的にとらえられてしまう。パターンもあります。言うまでもなく、その上司は信頼されていないのです。これをわたしは「からの原理」と呼んでいます。

上司というのは、正しいことを言うから信頼されるのでも、ワガママを言うから信頼されないのでもありません。大切なことは普段からの部下とのコミュニケーションです。部下にとって最良のことは何なのか、部下が働きやすい環境をつくるためにはどうしたらいいのかなどを考え、少しずつ信頼を積み重ねていくことが、一番大切なことなのです。信頼関係を構築しているならば、「でもの原理」が働くものです。

（「上司のルール」より転載）